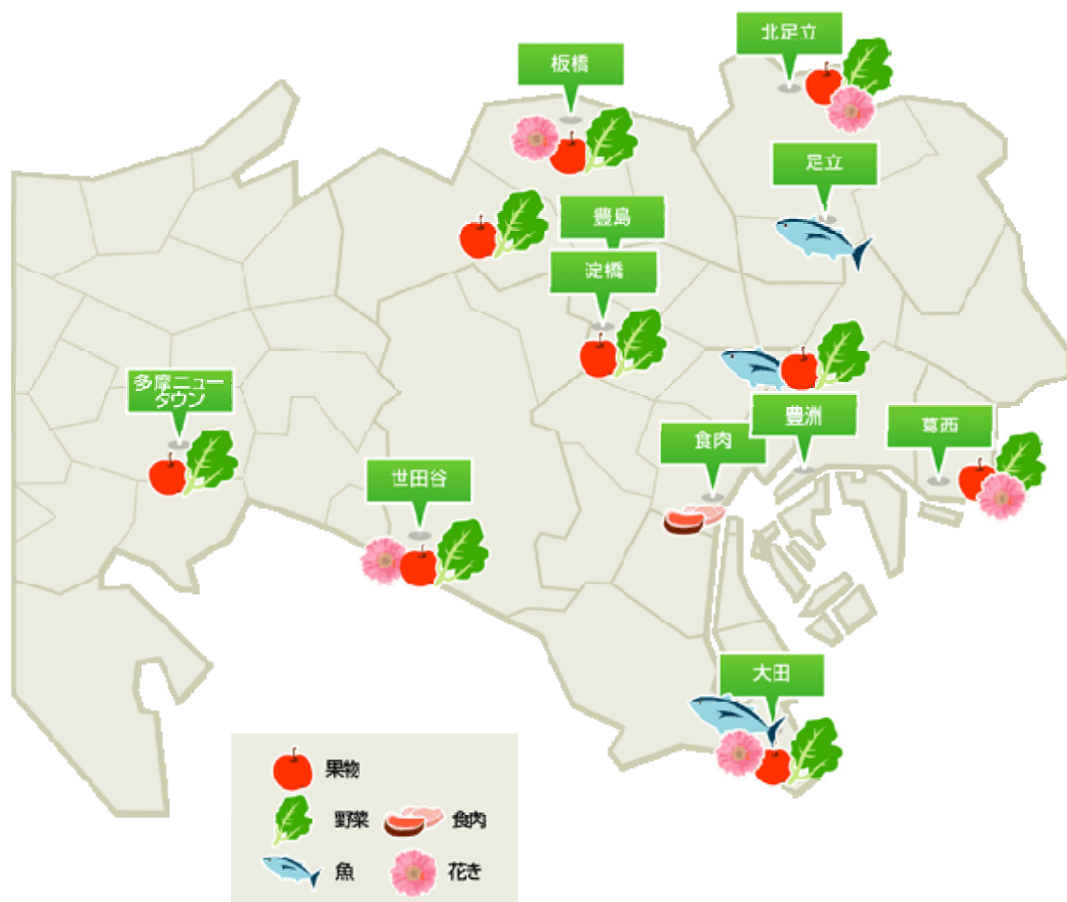


# 淀橋市場の概要



令和元年 7月 1日

# 目 次

1	市場の概況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2	市場の規模	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
3	取扱実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 6
4	仲卸業者の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8
5	施設配置図	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 9

# 1 市場の概況

## (1) 沿革

大正12年3月、中央卸売市場法の公布とともに、大正13年3月、東京市においても第1次中央卸売市場建設計画を策定し、築地本場、神田分場及び江東分場を建設して、昭和10年に開場した。一方、昭和7年7月に第2次計画を策定し、各地に散在していた私設の卸売市場を統合収容して、足立、荏原、豊島、淀橋の各分場の開設を決定した。

この第2次計画に基づき昭和13年9月、市場用地 13,200 m<sup>2</sup>、建物面積 3,702.6 m<sup>2</sup>の淀橋分場が完成し、昭和14年2月16日に、四谷・淀橋・中野・杉並・練馬・渋谷・世田谷方面に散在していた13の私設青果市場を収容して淀橋分場が業務を開始した。

また、同分場を補完するための配給所として、松原・杉並の配給所が昭和14年5月に、練馬配給所が昭和21年6月にそれぞれ業務を開始した。

昭和30年代後半からの高度経済成長期を機に、人口の都市への集中化が進み、生鮮食料品の需給量も増大してきた。とりわけ、東京都の西部地域の人口増と新宿区の高層ビルの出現等により、昼間人口が著しく増加するなど、淀橋市場(昭和37年、分場が市場に、配給所が分場に改称)は、その立地条件から生鮮食料品の都民への供給源として年々取扱量が増加してきた。

淀橋市場は取扱量に比べ敷地面積が他の市場と比較して狭隘なため、取扱量の増加に伴い、昭和49年から60年の10年間に4回の立体的な改築を行い、卸売場及び駐車場を増設し、市場機能の充実と混雑緩和を図ってきた。

しかし、産地からの搬入車両の大型化や都市化の進展による周辺道路の交通量の増大に伴い、市場機能にも大きな影響を及ぼすようになってきた。

## (2) 現状と課題

淀橋市場は、新宿区をはじめ中野・杉並・練馬・世田谷等周辺区部や多摩地区の東部・中部を中心に青果物を供給しており、東京都中央卸売市場の青果9市場中で大田市場、豊洲市場に次いで第3番目の取扱実績を保有するなど、生鮮食料品の安定供給に重要な役割を果たしている。

しかし、産地出荷者の大型化に伴う大量・広域輸送の進展により、搬入車両がさらに大型化するとともに、取引方法の多様化(転送・納入等)に伴い、買出人の車両もせり開始時刻(午前6時40分)以前の深夜早朝から市場に出入りする傾向となってきたことから、様々な問題を抱えている。淀橋市場は敷地が狭隘なうえ、その市場面積に比べ取扱量が多いことから、市場関係車両による騒音と交通渋滞等により、近隣住民や一般通行車両及び通行人に多大な影響を及ぼす状況となっている。

このような状況の中で、平成17年6月1日に、卸売会社である「東京新宿青果株式会社」と「東京淀橋青果株式会社」が卸売事業を統合し「東京新宿ベジフル株式会社」として新たに発足した。これを機に卸売場を再配置し、中央3車線通路を活用することにより、以前に比べてスムーズな動線が確保されるようになり、市場内外の交通渋滞に改善のきざしが見えている。

### ◎課題への当面の対応

関係車両による交通障害及び騒音等を低減するため、警備員や交通誘導員を配置し、市場周辺の交通整理等を行っている。

警備については、正門詰所は8時から16時まで、南門詰所は24時間の警備委託を行い、場内の警備はもとより、都の巡視職員と協力して定期巡回し、アイドリングストップや市場外での荷捌き禁止など市場周辺の環境維持に努めている。

交通整理については、19時から翌日5時まで門や交差点などに交通誘導員 9 名を配置しているが、通行車両の多い小滝橋門は10時まで、南門は14時まで、正門は平成25年度から24時間配置、平成31年度からは日中も2名体制とし、円滑な入退場及び歩道の安全確保に努めている。また、特に混雑の予想される日は配置を11人に増やし、交通整理の強化を図っている(平成30年度は年間103日を強化日として設定)。

### (3) 整備計画の変遷

#### ア 第5次及び第6次卸売市場整備計画

東京都は平成3年度に第5次卸売市場整備計画(平成3年度～平成12年度)を策定し、この中で淀橋市場については、市場機能の回復と交通混雑を解消するため、既存の建物の一部を取り壊し、卸売場4階建・管理棟7階建・地下1階とする整備計画を立て、敷地の有効活用と近隣環境に配慮した市場とすることを目指した。

しかし、この計画については、平成6年の住民説明会の場で、工事期間が8年5ヵ月を要することから、工事期間の短縮が求められた。また、4階以上に事務所を設置するために卸売場が不整形になり、車両の出入りに支障が生じること、車両総重量規制緩和と新たな耐震診断の調査が必要になってきたこと、埋蔵文化財の本格的な調査が必要になったこと等により、平成7年度に基本設計の見直しを行うこととなった。その結果、次の案が検討された。

- ・ 卸売業務部門の大規模整備は行わない。
- ・ 旧看護学校跡地を全面取得し、当該地に事務管理部門及び通勤用車両の駐車場を立体的に建設する。
- ・ 現事務棟及び仲卸売場棟を撤去し、産地からの搬入車両等の待機場所とする。

しかし、逼迫している市場財政のなかで、各市場とも第5次卸売市場整備計画の見直しを余儀なくされ、淀橋市場では、旧都立新宿看護専門学校跡地の取得が不可能な状況になったことなどから、この計画を一旦白紙に戻すことになった。

- ・ 第6次卸売市場整備計画(平成8年度～17年度)の策定にあたっては、第5次整備計画による淀橋市場の施設整備を白紙に戻したことから「淀橋市場にとって何が一番緊急性があるのか」について業界と検討した結果、市場内の問題も山積しているものの、周辺環境への迷惑を解消することが第一であるとして、市場関係車両を市場内に取り込むための施設の整備を計画に盛り込むとともに、一部既存施設の耐震補強工事を行うこととなった。

#### ○第6次卸売市場整備計画に基づく具体的整備(平成13年3月完了)

- ・ 卸売場2階空間部の改善  
吹き抜け部分を塞ぎ、2階では屋根付きの施設、3階では駐車スペースの拡張を図った。

- ・ 2階卸売場へのスロープの設置  
小滝橋門から2階卸売場へのスロープ、2階北側卸売場から下り専用のスロープを新たに設置した。
- ・ 1階中央管理通路の拡幅  
2車線を3車線に拡幅し、産地車両の通行動線を確保するとともに、荷下ろし作業の利便性を高めた。
- ・ 防音壁の設置  
市場内の騒音が周辺住民に与える迷惑を防止するため、既存スロープなどに防音壁を設置した。

## イ 第7次卸売市場整備計画（平成13年度～22年度）

平成13年に第7次卸売市場整備計画が策定された。本計画において淀橋市場は、「本場は、新たに設置したスロープなどの活用によって場内動線の改善を図るとともに、狭隘な市場の効率的な活用を図るため、既存の仲卸業者売場棟等の再配置を含めた検討を踏まえ、必要な整備を行う。練馬分場は、民間の活力を導入することとし、老朽化した杉並分場を統合して地方卸売市場とする。松原分場については安全対策を講じる一方、将来のあり方を検討する。」こととされた。

### ○練馬分場の地方卸売市場化杉並分場の統合

平成13年第3回都議会定例会で「東京都中央卸売市場条例」が改正され、練馬分場は平成13年11月1日をもって、卸売業者「東京新宿青果(株)」を開設者とする地方卸売市場に移行、また、杉並分場は平成15年4月6日に廃止し、練馬地方卸売市場に統合した。

### ○松原分場事務所棟の整備

松原分場の事務所棟については、昭和44年に建設されて以来30年以上経過し、老朽化が著しいことから、安全対策として平成14年度に新事務所棟を建設した。

## ウ 第8次卸売市場整備計画（平成17年度～22年度）

平成17年に、第8次卸売市場整備計画が策定され、この中で淀橋市場は次のとおり計画された。

- ・ 本場は、狭隘な市場の効率的な活用を図るため、場内動線や仲卸業者売場等の配置を抜本的に見直し、必要な施設整備を行う。品質管理の高度化を図るため、低温卸売場を整備する。
- ・ 松原分場については、あり方を検討する。

### ○本場について

- ・ 平成18年5月に低温卸売場が完成し、現在活用している。
- ・ 場内動線の改善及び仲卸業者売場棟の配置の見直しについては、平成18年度から基本計画を策定し、整備の実現に取り組んでいる。

### ○松原分場について

- ・ 平成18年度に開催された卸売市場審議会において、松原分場の廃止が決定された。

- ・平成20年第1回都議会定例会で「東京都中央卸売市場条例及び同条例施行規則」が改正され、平成20年7月21日をもって松原分場が廃止となった。

## **エ 第9次卸売市場整備計画（平成23年度～27年度）**

平成23年に、第9次卸売市場整備計画が策定され、この中で淀橋市場は次のとおり計画された。

- ・狭あいな市場の効率的な活用を図るため、新仲卸業者売場棟を建設するなど、淀橋市場リニューアル事業を引き続き推進する。
- ・また、拠点市場としての機能を十分に発揮していくため、品質管理の高度化及び衛生対策の強化の観点から、低温施設の整備を行う。

### **○新仲卸業者売場棟の建設**

平成24年10月、市場西側に新仲卸業者売場棟を建設し、この中に仲卸業者売場のほかに事務所や低温荷捌場、さらに電動車充電場所を整備した。

### **○待機駐車場の確保**

旧仲卸業者売場棟の跡地を活用して、路上に待機していた産地車両等を場内に取り込むための待機駐車場を整備した。

## **オ 第10次卸売市場整備計画（平成28年度～32年度）**

平成29年に、第10次卸売市場整備計画が策定され、この中で淀橋市場は次のとおり計画された。

- ・狭あいな市場の更なる効率的活用を図るとともに、実需者ニーズに配慮した施設整備を検討する。

### **○環境問題への対応**

省エネ・地球温暖化対策を推進していくため、以下の取り組みを行う。

- ・冷蔵・冷凍庫設備更新工事
- ・LED照明設置工事

#### 4 仲卸業者の状況

##### (1) 卸売業者の取扱高に占める仲卸業者の買受高比率（平成30年）

（単位：％）

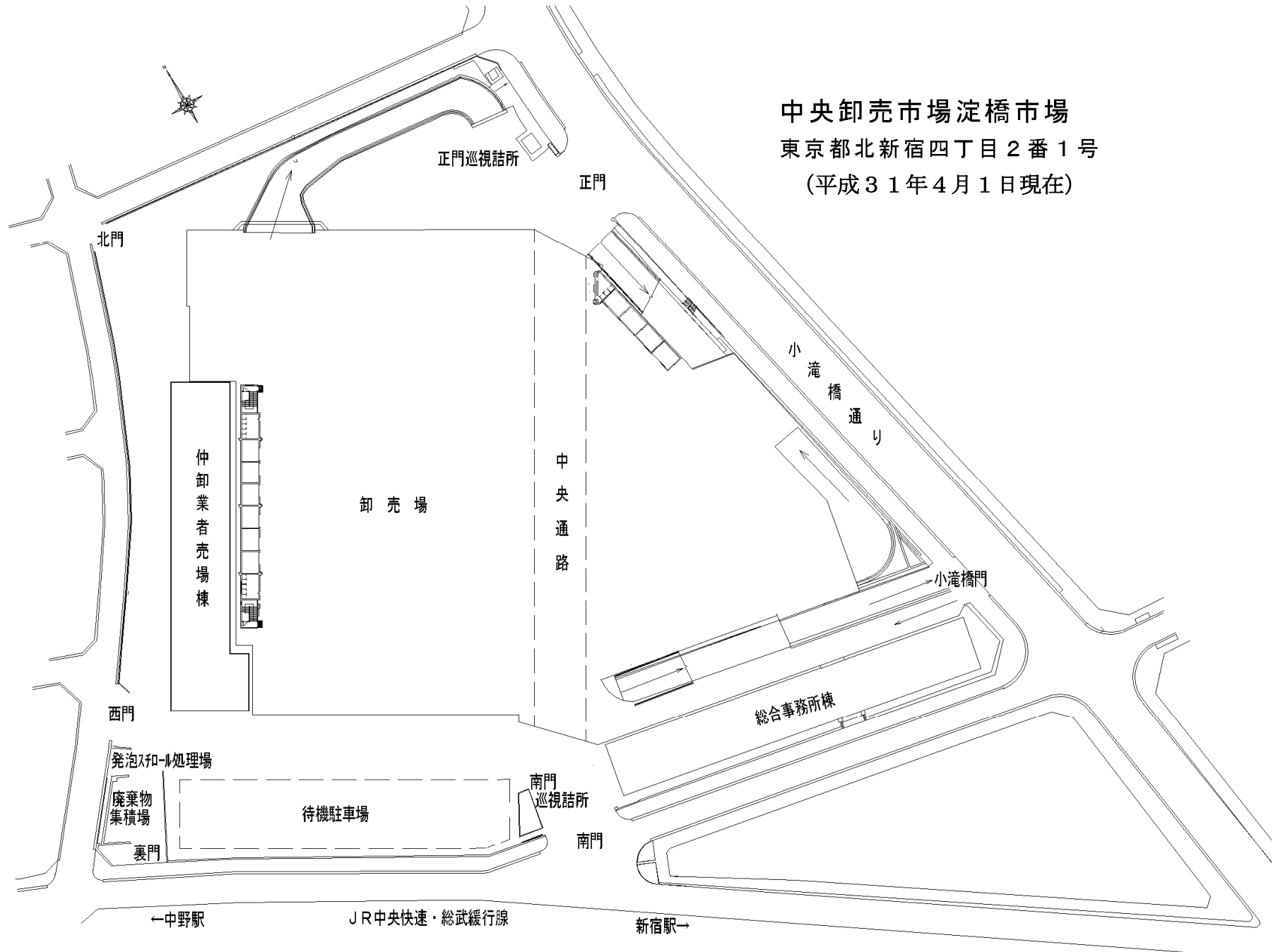
市場名 種別	築地	大田	豊島	淀橋	板橋	世田谷	北足立	多摩NT	葛西	全市場
野菜	55.9	61.1	13.6	22.6	23.7	34.3	44.7	76.2	16.1	48.2
果実	63.1	79.9	50.5	31.8	47.3	52.5	47.2	73.3	29.1	66.5
総取扱高	53.9	67.3	20.0	24.8	29.8	36.0	45.1	75.8	19.8	53.1

##### (2) 仲卸業者の買受金額別分布（平成30年）

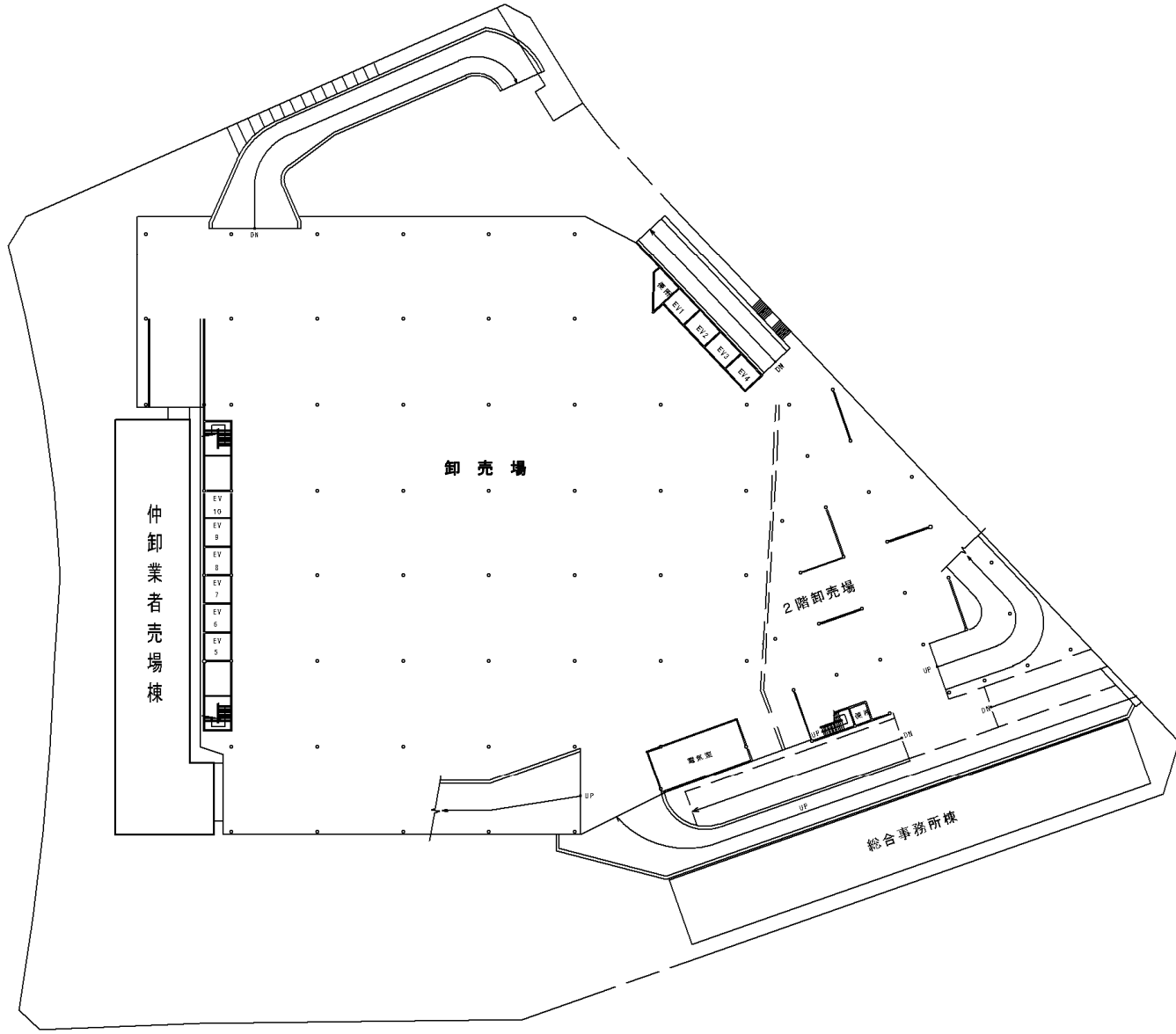
（単位：％）

区分 事項	50億円 以上	30億円 以上	20億円 以上	15億円 以上	10億円 以上	5億円 以上	2.5億円 以上	1億円 以上	5千万円 以上	5千万円 未満
業者数	0	1	1	2	2	3	2	3	1	0
構成比	0.0	6.7	6.7	13.3	13.3	20.0	13.3	20.0	6.7	0.0

中央卸売市場淀橋市場  
東京都北新宿四丁目2番1号  
(平成31年4月1日現在)







平成30年1月～平成30年12月(開市日数 259日) ※築地市場は196日・豊洲市場は61日)注)豊洲市場の値は、3

区分	入荷数量	売上金額		
	総数	総数		
総数		1,942,026,171	580,696,885,320	
	t/100万	1,942,026.17	580,696.89	1,942,026 580,697
	前年比	95.682	99.665	95.7 99.7
	構成比	100.00	100.00	100.0 100.0
	一日	7,498.171	2,242,072.916	7,498 2,242,073
豊洲市場	総数	243,746,456	86,203,316,490	
	t/100万	243,746.46	86,203.32	243,746 86,203
	前年比	92.957	97.999	93.0 98.0
	構成比	12.551	14.845	12.6 14.8
	一日	941.106	332,831.338	941 332,831
大田市場	総数	970,412,286	302,304,969,067	
	t/100万	970,412.29	302,304.97	970,412 302,305
	前年比	98.108	101.577	98.1 101.6
	構成比	49.97	52.06	50.0 52.1
	一日	3,746.766	1,167,200.653	3,747 1,167,201
北足立市場	総数	137,169,222	38,469,887,446	
	t/100万	137,169.22	38,469.89	137,169 38,470
	前年比	91.647	97.510	91.6 97.5
	構成比	7.06	6.62	7.1 6.6
	一日	529.611	148,532.384	530 148,532
葛西市場	総数	111,880,226	28,115,946,550	
	t/100万	111,880.23	28,115.95	111,880 28,116
	前年比	98.083	99.168	98.1 99.2
	構成比	5.76	4.84	5.8 4.8
	一日	431.970	108,555.778	432 108,556
豊島市場	総数	88,581,395	22,092,552,084	
	t/100万	88,581.40	22,092.55	88,581 22,093
	前年比	94.513	98.574	94.5 98.6
	構成比	4.56	3.80	4.6 3.8
	一日	342.013	85,299.429	342 85,299
淀橋市場	総数	220,302,335	60,895,187,172	
	t/100万	220,302.34	60,895.19	220,302 60,895
	前年比	93.873	98.658	93.9 98.7
	構成比	11.34	10.49	11.3 10.5
	一日	850.588	235,116.553	851 235,117
板橋市場	総数	114,491,096	28,319,428,794	
	t/100万	114,491.10	28,319.43	114,491 28,319
	前年比	96.115	99.349	96.1 99.3
	構成比	5.90	4.88	5.9 4.9
	一日	442.051	109,341.424	442 109,341
世田谷市場	総数	33,248,456	8,472,128,880	
	t/100万	33,248.46	8,472.13	33,248 8,472
	前年比	80.031	83.902	80.0 83.9
	構成比	1.71	1.46	1.7 1.5
	一日	128.372	32,710.922	128 32,711
多摩NT市場	総数	22,194,699	5,823,468,837	
	t/100万	22,194.70	5,823.47	22,195 5,823
	前年比	86.953	89.152	87.0 89.2
	構成比	1.14	1.00	1.1 1.0
	一日	85.694	22,484.436	86 22,484

2 1 1,942,024 580,696

-0.1 0.0 100.1 100.0

-1 1 7,499 2,242,072